

津山市議会議員

政岡あきひろ

議会報告

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。



ごあいさつ

津山市民の皆様、お世話になっております。「政岡あきひろの議会報告」第二十六号が出来上がりました。ご覧いただきますようお願いいたします。

この議会報告は、一年に四回開かれる津山市議会の開催ごとに作成しています。新聞や広報誌、或いはYouTubeでは伝えられない、生の津山市議会の様子や、私の議員としての活動について、なるべくわかりやすくお伝えするために作成しています。そのような点を汲み取って、お読みいただければ幸いです。



市長の出馬表明

さて、すでに新聞報道などでご存じの方も多いかと思いますが、この九月議会では、現職の谷口市長が来年二月に改選される市長選挙への出馬を表明されました。

このことは、津山市議会における慣例に従ったものです。通常、次期市長選挙に立候補する意思がある現職市長は、選挙前年の九月議会でその意思を表明することが慣例となっています。これに倣い、本九月議会の冒頭において、現職の谷口市長が次期市長選挙への出馬を表明しました。

振り返りますと、谷口市長は就任と同時に様々な改革に着手され、その成果が見え始めた矢先に、西日本豪雨災害への対応を迫られるというスタートでした。また、ようやくその災害の傷跡が癒えようとしていた昨年当初からは、未だ収束が見えない

いコロナ禍への対応にあたる日々となりました。

それでも、「津山動く」のキャッチフレーズのもと掲げられた津山八策を指針に、精力的に行財政改革に取り組みました。その成果として、一例ですが農林部設置による儲かる農業を目指した津山地域版農業ビジネスモデルの策定（具体的には、地域商社の発足）やサマーレビューによる行財政改革・財源確保、さらには機構改革の断行などが挙げられます。

また、前述した災害対応では、浸水対策を最優先とし、ポンプゲートの完了年度を五年前倒し、本年度の「昭和町ポンプゲート」で計画をすべて終了することができました。

一方で、未だ収束が見えないコロナ禍への対応では、いち早く企業回りなどクラスター対策を実施しました。また、医師会をはじめとする関係機関と緊密な連携を図りながら、県・国とのパイプを活かし、大規模接種会場のワクチン（モデルナ社製八千四百人分）を他都市に先駆けて確保しました。

その成果として、津山市のワクチン接種率は九月五日時点で一回目七十一・二％（岡山県平均五十二・六％）、二回目五十七・八％（同四十三・九％）を達成し、一回目で約十九ポイント、二回目で約十四ポイント県平均を上回っています。

質問内容

残念ながら、クラスターなどの事例も見られますが、ここまでの新規感染者数は九月八日時点において岡山県全体が一万四千三百七十三例で、そのうち本市が四百二十例となっています。これを人口比で見ると五・三％に対して二・九％となり、抑制されているといえます。

一方、様々な改革への取り組みは災害やコロナ禍への対応もありこれらが重要になります。

私は、以上のことを踏まえ、谷口市長の就任からここまでの取り組みに関する成果と評価について質し、今後への思いも尋ねました。

さらに、例えば先ほど述べたコロナ対応に関すること一つとっても、そのことを知らない市民の方があまりに多い点を指



▲裏面に続く

会派未来

発行 政岡あきひろ事務所
活気ある津山へ 未来志向改革!!

〒708-0014 津山市院庄 621-2
Tel. 0868-28-0501 Fax. 0868-28-4437
E-mail masaakape@ebony.plala.or.jp

市議会の内容は津山市役所ホームページから配信しております。
URL <https://www.city.tsuyama.lg.jp/city/index2.php?id=392>

摘し、施策実施に関する効果的なアピールのあり方についても市長及び執行部を質しました。

このことに関しては、一つにはトップがメディアなどを効果的に使い、広く情報発信をしていくことが考えられます。例えば、他都市の首長などがテレビなどマスコミを上手く使っている様子を見ると、本市においてもっと取り組んで欲しいと思うのは人情です。

私は、そのことも提言しましたが、実はもっと大切なことがあると考えています。それは、いわゆる口コミというのか、静かではありますが、着実に市民に浸透していく方法があると思います。

それは、トップが真にこのまじのことを考え、市民によりその気持ちを持って施策実施に臨む姿勢を示し、職員全体がそれを十分に理解したうえで、日常の業務に真摯にあたる姿勢を市民に示すことです。

そうした職員の誠意ある姿勢に触れた市民を通して、自然な形でトップの思いが伝わっていくことが期待できると思います。このような下地をしっかりと築きながら、例えば前述したコロナワクチン接種に関する情報などをタイムリーに提供することにより、多くの住民への周知がスムーズに行えるはずで

す。つまり、職員の資質向上と意識改革は、効果的な情報の発信



にも結び付くものなのです。もちろん、行財政改革の取り組みを推進するためにも、そうした人材教育と意識改革は極めて重要です。私は、このことを強く市長及び執行部に促しました。

一方で、私は、市民の中に高い住民意識の醸成を図ることの大切さを繰り返し述べています。それは、どのようなことをするにも人が大切であり、人が良くなければ何事も上手くいかないと考えざるを得ません。

そのことは、私が長年に渡る自治体活動などの取り組みを通して、つかんだ実感です。また、自治体が進める効果的な施策が成功している地域では、必ずといって良いほど、郷土愛と高い倫理観を備えた住民自治組織が形成されています。

私は、そのような「故郷を愛し協調性のある人」を育てるために、まず郷土のことを知り学ぶことが大切であると考

います。そのうえで、早い時期から地域行事に積極的に参加し、伝統文化に触れることが重要です。さらには、そのような取り組みが、結果的には学力の向上にも結び付くと考えられます。

まずは、津山の財産である豊かな歴史・文化についてしっかりと学んでもらう必要があると思います。そのための施策の一つとして、津山洋学資料館に小学生の間は、毎年見学に訪れることを提案しました。

答弁内容

市長からは、就任以来これまでの行財政改革への取り組みや成果、今後への思いに関する答弁がありました。併せて、緒に附いたばかりともいえる行財政改革への取り組みに、引き続き先頭に立っていききたいという覚悟が示されました。

教育長からは、本市教育の使命の一つはふるさと津山に誇りと愛着を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成であるとし、「人づくりは、まさに地域づくりの土台である」との考えが示されました。

そのうえで、子ども達が幼少期から地域の様々な行事や人との交流等を通して、地域の人に認められることにより、生活や学習意欲への自信を深めることが、高い住民意識の醸成につながるものと確信している、という答弁をいただきました。

終わりに

今回は、人づくりの大切さを訴え、職員の資質向上と意識改革による情報発信の可能性や、高い住民意識の醸成を図るための郷土教育のあり方について議論を深めることができました。洋楽資料館については、一律に毎年見学するまではいきませんが、IC T機器の活用で教室と結ぶことにより、歴史文化施設に子供たちが親しみやすくするための取り組み方針が示されました。

これからも、市民の皆様の思いを形にし、津山の明るい未来を築くための施策実施に、精一杯取り組んでいくつもりです。今後とも、ご指導・ご鞭撻よろしくお願いいたします。

